

2. 箕面市の交通政策の現状

ブレインストーミング時に行われた、箕面市による説明を要約したものである。

(1) 北大阪急行線延伸の状況

北大阪急行線延伸計画は、千里中央から箕面市のかやの中央地区まで、鉄道を約2.5km延伸させる計画（船場地区に途中駅）で、平成元年から取り組んでいる事業である。

また、近畿地方交通審議会答申第8号においても、「京阪神圏において、中長期的に望まれる鉄道ネットワークを構成する新たな路線」の一つに位置づけられている。

これまで、鉄道事業者を含む関係者で延伸計画に関する協議を行ってきたが、延伸することにより、既存路線の乗降客減少が予測され、競合する既存鉄道事業者の協力が得られない状況にあった。

しかし、近年、そういう既存鉄道事業者に影響する損益を調整できる事業制度が確立され、北大阪急行線の延伸に関しても、関係者が前向きに議論できるようになってきたという経過がある。

昨年10月に延伸計画に関する市民意向を把握するためにおこなったアンケート調査では、約3分の2の市民が延伸させるべきとの回答があった。

今後、平成30年度に予定されている新名神高速道路が開通に伴い、新たな交通需要の発生が考えられるため、自動車から鉄道への利用転換施策を推進しつつ、その時期に合わせて鉄道延伸を実現させたいと考えている。

(2) バス路線網の検討状況

箕面市における路線バスの現状としては、概ね箕面市全地域から千里中央を結ぶバス路線として整備されているという状況である。

市内移動に関しては、箕面市内の公共施設間を結ぶ交通として、公共施設巡回福祉バス（Mバス）を市内の西部の北、西部の南、中部、東部の北、東部の南、止々呂美の6ルートで運行しており、公共施設を利用する方は無料で利用することができる。ただ、買い物等自由目的では利用できないという状況である。

現在、市民の利便性を考え、Mバスの路線バス化（有料）について検討しており、その検討の一環として、昨年10月にMバス利用者アンケート調査を行った。

その結果、Mバスが有料化しても、駅や商業施設に行くのなら乗るとの回答が多いという状況であったが、高齢者や障害者への対応が課題となって残っており、それらを含め、市の方針が決定し、関係者とも合意が得られれば、平成21年度から社会実験を行う予定である。